

vol. **9**  
2017

学ぶことは楽しい



# Disce Libens

## CONTENTS

- |      |                                     |      |                                      |
|------|-------------------------------------|------|--------------------------------------|
| P. 2 | コラム Disce Liebens<br>「学ぶことは楽しい」     | P. 6 | 2nd Stage■ 紡がれる慶進生の絆                 |
| P. 3 | 本が誘う慶進の世界<br>英語「多読」                 | P. 7 | 3rd Stage■ 時の人                       |
| P. 4 | 1st Stage■ 慶進生の読書事情                 | P. 8 | 進学羅針盤                                |
| P. 5 | 慶進の選りすぐりPOP<br>La Classe de Keishin | P.10 | 同窓生                                  |
|      |                                     | P.12 | La Photo de Keishin<br>お知らせ<br>小さな本箱 |

# Disce Liebens

## 「学ぶことは楽しい」

「嫁入り道具」、みなさんはこの言葉を知っていますか？お嫁さんが嫁ぐ時に、お婿さんの家を持っていくものを指します。かつては箆笥や着物といったものに人気があったようです。東北では年季の入った仙台箆笥をみかけることもよくありました。最近では家電や自動車といったものも嫁入り道具として重宝されまし、男女平等の個人を尊重する現代では、嫁入り道具は必要ないという場合もあるようです。

中世ヨーロッパでは「本」が嫁入り道具として人気がありました。当時は本を一冊作るのに、職人が長い年月をかけて一字一字を手書きし、美しい装飾を施しました。当時は紙ではなく羊皮紙を使用しました。聖書のために羊が十五頭も必要とされたようです。何より職人が一冊一冊手がけた唯一無二のものでした。それゆ

えに、嫁入り道具になるほど「本」は価値の高いものでした。

十五世紀にグーテンベルクが活版印刷術を発明してから、大量に「本」が出回るようになります。しかし、それでも「本」の価値は高いままで、印刷による大量生産や、紙の値段が下がり、「本」一冊の価格は低くなりましたが、「本」に記された価値は変わりません。幼い日に親に読んでもらった絵本、青春の指針となった小説、四苦八苦しながら読んだドイツ語の論文集など、「本」は人生に不可欠であり、人生を豊かにしてくれます。

慶進生にとっても「本」はとても価値のあるものでしょう。日々の知的好奇心を満たしてくれるだけではありません。本を通して多くのことを学びます。授業中にびっくりするようになるとい質問は、日々の読書に

よるものだとということは何度も知りました。

また、慶進ではGLP(グローバル・リーダーズ・プログラム)の環境として修了論文やテーマ発表会に取り組んでいます。これらの取り組みをみていると、昨今は便利になったものだと感じます。インターネットで検索すれば、必要な情報がすぐに得られるからです。しかし、それだけでは深みのある論文や発表にならないようです。誰かが精魂をこめて研究して執筆した「本」を読むことで、自らの思考も深まっていくようです。多くの慶進生がそのことを楽しんでいました。自ら主体的に学ぶ、そのことが楽しいようです。

今回の慶進の世界(Le Monde de Keislin)では、そんな慶進生の学びの世界を「本」を通して探ってみます。



# 本が誘う

## 慶進生の世界

僕がこの慶進中学校に入学しようと思ったきっかけはたくさんありますが、その中の一つが「本」です。

どこの学校にも「本」はあると思いません。もちろん、慶進中学校にも本はありますが、それは図書室だけとは限りません。校内にあるコミュニケーションスペースや広い範囲で見ると学校近くの市立図書館。それらの本は、僕の期待以上の感動と知識を与えてくれました。

今では家でも、学校でも本を読むようになりました。でも、実は慶進に入学する前までは、本があまり好きではなく、趣味が「読書」という人の気持ちがよくわからなかったのです。まだ小学生だった僕にとって、本を読んで知識を得ても使う時がない、とその時は感じていたからでしょう。

しかし慶進中学校に入学して、その感覚はなくなりました。慶進には、物語から大学入試対

生徒会副会長 13期生

安田 一平(中二)



策を目的とした本まで幅広い分野の本があります。おかげで、本にそこまでの興味が無かった僕も本に興味を持つことができました。このことは後々自分の大きな糧となると考えています。もし本に全く興味が無いという人でも、何か一冊読んでみてください。みんなが読み始めると、本を読んでみたくなくなります。慶進は、互いに切磋琢磨する仲間ばかりのため、自然と本を読んできたくなると思います。

僕が本を読んでよかったと思うことは二つあります。一つ目は本をきっかけに友達ができました。同じような本を読んでいる人同士というのは、他にも共通点が多いため、すぐに意気投合することは少なくありません。本を読んできていなければ、

ば、こういうことはできません。二つ目は、知識が増えたことです。僕は勉強することよりも学ぶことが好きなので、自分の新しい知識が増えていく感覚はとても楽しかったです。具体的にいうと、知識というのは、豆知識のようなものや、漢字や語彙のことです。特に漢字や語彙に関しては楽しみながら学ぶことができ、どんどん知識を蓄えれば難易度の高い本に挑戦することもできます。

僕が本を読んでよかったと思ったのはこの二つです。他にも本のいいところは無数にあります。本というのは人生を大きく変える力を持っていると僕は考えています。みなさんもぜひ、慶進で本を読んでみてください。

## 6年中高一貫教育 英知を尽くし、未来を切り拓く。

慶進では生涯にわたって役立つ学力を身につけるために、6年間で2・2・2の3つのステージで構成しています。勉強のおもしろさを知ることから始まり、生徒たちが主体的に学習に取り組み、学内外の様々な体験活動で、豊かな人間性と、ともに生きる力を育み、次世代のリーダーとなる人材を育てます。

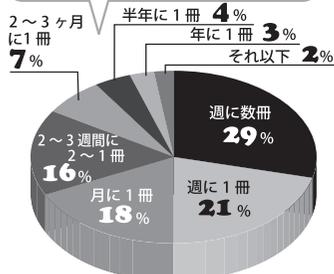
|                      |       |                    |       |                    |       |
|----------------------|-------|--------------------|-------|--------------------|-------|
| 1st Stage<br>基礎学力養成期 |       | 2nd Stage<br>実力充実期 |       | 3rd Stage<br>発展応用期 |       |
| 中学1年生                | 中学2年生 | 中学3年生              | 高校1年生 | 高校2年生              | 高校3年生 |



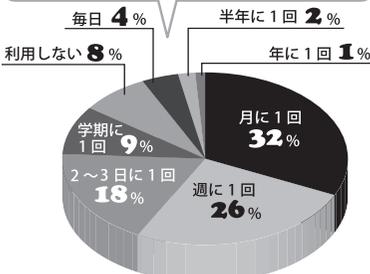
# 特集：慶進生の読書事情

活字離れが嘆かれる昨今ですが、慶進生の読書事情はいかなるものでしょうか。修了論文やテーマ発表会に取り組み姿や、日々の教室の様子をみていると、読書量は多いように感じます。でも、意外と中学校全体をみても少ないのかも…そんな不安を抱きながら、慶進中学校204名に読書についてアンケートを実施しました。

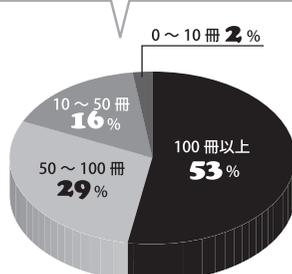
Q 普段、平均してどのくらい読みますか？



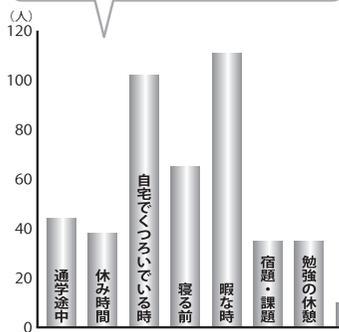
Q 図書館をどのくらい利用しますか？



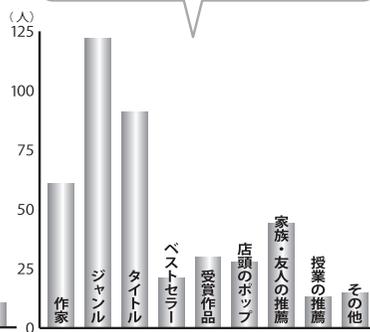
Q 家に何冊自分の本がありますか？



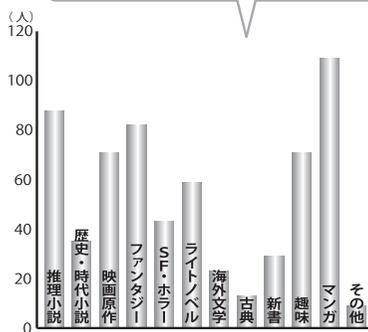
Q どんな時に読書をしますか？



Q 本を選ぶポイントは何ですか？



Q どんなジャンルを読みますか？



Q 好きな作家 Best3

1位 山田悠介 2位 有川浩 3位 住野よる

アンケートの結果は予想を超えるものでした。我々が思っていた以上に慶進生はよく本を読んでいるようです。図書館を利用し、日常の様々な時間を読書にあてているようです。読書が習慣になっているのはとても喜ばしいことです。また、読むジャンルも多岐にわたります。好きな作家の上位3名を挙げていますが、票は集まっていません。夏目漱石や太宰治など名著の作家から昨今の人気作家まで数多くの名前があげられました。このような慶進生の多様な読書事情は、慶進生にさらなる成長をもたらしてくれることでしょう。

## 英語「多読」

私たちは日々、日本語の学習を続けています。日常生活の中で、そのような感覚をもつて過ごしている人など出会う中で、正しい言葉遣いを学ぶし、新聞を読めば知らない単語にも出会います。日本でも生まれ育つた人はもちろん、海外から留学・移住してきた方なども日本に在る間は、日本語に触れ、使用し、それを学習しているのです。そのような、日常にありふれた言語学習を、学校での外国語習得では、授業を主体として、修学旅行などの学校行事などで、意図的に作り出しているのです。

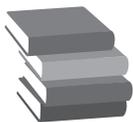
しかし、現在の日本の英語の教科書はあまりにも分量が少ない。新聞を考えてみてください。一つの記事を読むだけでも教科書の1レッスン分ほどの分量がありそうです。英語の教科書を一年間で10レッスン進むとしたら、日本語だと新聞一日1記事を、十日ほど読めばよい程度のインプットしかないので、英語を習得したければ、それではやはり足りないのです。

そこで、慶進では、英語の多読を行っています。多読とは、「辞書を使わずに、二三分からない単語は飛ばす」「面白くないければ他の本に移つてよい」というルールのもと、内容を八割ほど理解しつつ読んでいきます。授業で時間をとることもありますが、基本的には自分で読む。新聞に分からない単語があっても、なんとか読んでいけるのと同様、英語多読においても、全体の内容の

把握を中心に読み進めることで、要約力や単語の意味を推測する力などの習得が期待できます。また、面白い内容の本を読むことで英語学習へのモチベーション向上にもなっています。

話は少し変わりますが、私は、外国語という教科は体育に近いものだと思っています。共に技能の習得を目的としているからです。野球を目的としては、ルールや体の動かし方を学び、キャッチボールやノック練習などを繰り返して、技能向上を図ります。外国語の習得においても、単語や文法を覚え、それを使って文章を聞き、話し、読み、書く練習を行います。単語や文法を覚えるだけでは、使えるようにならないのは、野球のことを考えると分かるはず。体の動かし方を知ってでも、野球がうまくなるわけではなく、キャッチボールなど練習すれば、やればやるほど上手くなるはず。残念ながら、体育の授業では時間が限られ、皆が野球部員のようになることはありません。そしてそれは外国語でも同じなのです。読めば読むほど、話せば話すほど、その言語の習得に近づくことができます。

毎日リスニング十分、多読一〇〇語、まずはそこから始めてみませんか。英語の世界が変わるはず。日本人が毎日日本語に触れるように、野球部が毎日キャッチボールをしているように、皆さんも英語に毎日触れてみませんか。それが英語習得への近道は、英語科 藤野 恭平



# 慶進の選りすぐりPOP

慶進中学校・高等学校では、国語の授業の一環としてPOPを作成します。これは、多くの慶進生にとって夏休みの読書のきっかけとなっています。作成されたPOPの点数は例年宮脇書店さんや幸太郎本舗さんが展示して下さいます。下の作品は昨年展示されたものです。今年のはぜひ店頭でご覧ください。



## La Classe de Keishin

### 国語

### POP

13期生  
田中 瑞希 (中二)

唐突ですが、皆さん読書は好きでしょうか。私の見る限り、周りの慶進生はほとんどが読書の好きな人であるように感じます。

さて、慶進では毎年、自分の好きな本について「POP」という広告を描き、その中から選ばれたものを実際に書店に貼っていただくという機会があります。

今回、私はかねてより描こうと思っていた本がありました。それは東野圭吾著の「ガリレオの苦悩」という推理小説です。いわゆる「警察」や「探偵」ではなく「物理学者」が謎を解くという新鮮さ、何より思わず舌を巻く事件のトリックの巧妙さに強烈な印象を受け、今回描こうと決めていました。

周りを見ると、生徒達のほとんどが心に「特別な一冊」を持つようです。私が思うに「特別な一冊」を持つことはとても重要なことではないでしょうか。「本を読まない」人々が日本の人口の半分に近いというデータもあります。そういった「読書不足」を改善するためには私達が「特別な一冊」をまず持つことが重要だと思います。

慶進には私達が「特別な一冊」を見つけるきっかけとなり得る「POP作り」という機会があります。また、同時に私達の「POP」が誰かの「特別な一冊」のきっかけとなるかもしれません。このような貴重な経験を私達生徒がさせてもらえるというのは、とても幸運なことであると思います。

2nd Stage

# オーストラリアで得た自信／東北で学んだ現実

## 海外語学研修



12期生  
近藤 将生(中三)

僕は夏休み語学研修でオーストラリアに行きました。オーストラリアに行くにあたってある不安がありました。それは、現地の学校で友達と話すとき以外日本語は一切なく、周りには本当に英語しかないということ。英語だけしかない空間にいるのは人生初であり、二週間も生きていけるのだろうか、自分の英語力で現地の人々、学校の先生や生徒、ホストファミリーと話すこと、それ以前に自ら話しかけることができるのだろうかという不安をもっていました。

海外語学研修は希望者を対象に、中三の夏休みに実施されます。オーストラリアの学校に通い、ホームステイを経験します。研修先の学校では現地のバティとの触れ合いがあり、楽しい学校生活を送ります。苦心しながら英語でコミュニケーションをとり、異文化に触れる経験を通して、一回り大きく成長します。

会ってかなり変わりました。自分のホストファミリーは親切でやさしくフレンドリーな人で本当に良い人でした。ホストファミリーの家にいき完全に英語だけの空間になってもかなりリラックスして楽に過ごせました。ホストファミリーとも自分が思っていた以上に話すことができ、オーストラリアに行く前に思っていた不安もすべてなくなりました。それでも、次の日の朝、現地の学校で友達に会い日本語を話せた時、生まれて初めて日本語が話せてうれしかったです。

行く前にあつた不安を自分の力でなくし、自分の力で現地の人々と会話することができ、行く前にはなかった妙な自信ができました。また、英語だけの空間ということもあり、リスニングなどの英語力が上がったのも確かです。今回のオーストラリア研修は心に残るいい思い出になりました。



## 東北スタディツアー



11期生  
南 安澄(高一)

私が「東北スタディツアー」に参加した理由は、最近東日本大震災について報道されていないと感じ、また、将来東北に進学したいと考えるようになり、東北の現状を知っておきたいと思ったからです。

被災地を見て、話を聞いて、改めて地震や津波の恐ろしさ、訓練や備えの大切さを感じました。特に津波被害にあった建物から伝わる津波の残酷さ、想像を超える津波の高さには圧倒されて言葉が出ませんでした。また、日頃から災害に備えて訓練を行い、冷静かつ臨機応変に行動できるようにしなけ

ればならないと思いました。そして、地元の方のお話で印象に残った言葉があります。「復旧はしたけど復興はしていない。心の復興と土地の復興は違う」という言葉です。見てまわった多くの場所で土地の整備や工事が行われており、更地のところも多くありました。また、お店が再開しても風評被害でお客さんが来ないというお話も聞きました。私は今だからこそ、多くの人に東北を訪れて欲しいと思います。地元の方はとても温かく、色んな話をしてくれました。実際に見て、聞いて、震災のことや東北の現状を知り、多くの人に伝えてほしいです。今後、大きな地震が起きたときは現状を把握し、避難してほしいと思います。また、避難しても油断しないことを忘れないでほしいです。万が一、津波が来た場合は走って高い方へ逃げて、高い建物に上がってほしいと思います。

東北スタディツアーは、宇部市の東日本復興支援プロジェクトチーム復興支援宇部を中心とした支援活動の一環として実施されています。今年度は8月1日から8月4日にかけて被災地をまわり、震災当時の体験や教訓等を学び、防災や減災について考えました。

# 3rd Stage 時の人

慶進では多くの慶進生が自分の将来に向けて輝いています。この「時の人」のコーナーはそんな輝く慶進生を取り上げていきます。今回は、ギリシャのアテネで行われたWSCの世界大会で優勝し、米国のイェール大学で行われた決勝大会に参加した10期生李卓卓さん(高二)を紹介いたします。

WSC優勝おめでとうございます。ありがとうございます。

今、優勝を振り返ってみるともう二月たつているので、過去のものとして捉えています。十一月の本戦でもっと力を発揮したいので今はそちらに目が向いています。

なぜWSCに出場しようと思いましたが？

今年の始まりに外部のコンテストに出て、学外の人と何かをするのは面白いと思いました。また、英語を使って他の勉強もしてみたいと思ったからです。教養をつけるよい機会にしたいと思いました。

他の勉強とはどのようなものですか？

大会では六科目について問われます。これらは普段の授業では習わない応用の分野でも興味があったのでそれらを学びたいと思いました。そのようなプラスアルファの勉強ができるのが魅力的です。他にも有名な英語の詩や小説の分析をしてみたいと思いました。例えばフロイスとか日本では有名な作家を学ぶのが面白いです。

世界大会で戦った印象は？

ディベートの対戦相手がオランダとイスラエルの学校でした。両校とも英語力が高く、日本のディベートとは異なり知識ではなく、レトリックが重要だという印象を持ちました。自分たちは知識や理論を重

視していましたが、伝えるコミュニケーションがまだまだ不足していると感じました。外国で通用するためにそのような力が必要だと痛感しました。

この経験を通して自分がどのように成長しましたか？

世界大会に出て、多くの国の人がいて、文化の違いはあるが同じ高校生として、同年代の人間として同じなんだなということがわかりました。その子達と交流すればするほど、もっと大きなことができるのではないかと思います。それはシンガポールの大会でも同様に感じたことです。同じ生徒だが文化が違うからこそよりよいものを生み出すことができます。

外国の友人とどんな話をしていますか？

外国の大学や、それぞれの自分の国の話をしています。自国の文化をとてもよく理解しているんだなと思っていました。そして、勉強は試験にむけてではなくて、自分の論理的思考力や教養を身につけるためにしていると感じました。テストに出るから覚えた方がいいという感覚ではなく、使うために学ぶ。フロイトをおぼえるのではなく、フロイトを使うために学ぶという感じでした。将来はどのようなことをしたいですか？

ニュースをみると自分がとても幸せだと思えます。これまでは理系で



10期生  
李卓卓(高二)

何かをと思っていました。現代社会に寄与するための研究をしたいと考えています。

慶進で学んだことは？

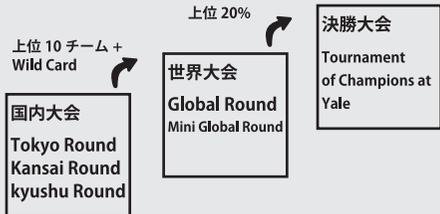
修了論文とかテーマ発表とか、自分で調べ、自分で書くことで自分について知ることができました。自分の興味関心を深め、自分のテーマが確立してきたことで自信をもつて話せるようになりました。それは自分自身のものの見方だと思えます。

最後におすすめの本は何ですか？

ハリポッターのシリーズです。私は小学生のとき二年半アメリカにいました。その時、英語ができずにコンプレックスを感じていました。そこで、英語で本を読んでもみようと思ひハリポッターの原書に手を伸ばしました。最初はなかなか読むことができませんでしたが、徐々に読めるようになると、英語の世界が広がりました。その後、英語で物語を書くなど、原書を読むことを通じて私の世界が広がったと思います。

## WSC (the World Scholar's Cup) とは

WSC (The World Scholar's Cup) とは、世界50カ国以上の約2万人の中高生が英語で参加し、総合的な教養を競うグローバルな大会です。下記の科目・競技で競い、国内大会、世界大会を勝ち抜き、米国のイェール大学で行われる決勝大会が行われます。今年度の国内大会は神奈川県・大阪・福岡で開催され、世界大会はベトナムのハノイ、ギリシャのアテネ、南アフリカ共和国のケープタウンで行われました。



### ■ 科目

- Special Area 特別科目
- Science 科学
- History 歴史
- Literature 文学
- Art and Music 音楽・美術
- Social Studies 社会

年度初めに発表される各科目のスタディーガイドに基づいて、各自がリサーチをし、各競技に臨みます。

### ■ 競技

- Scholar's Bowl  
すべてのチームが1か所に集まり、モニターに映し出されるクイズに、クリッカーというリモコンを使って回答する。
- ITeam Debate  
チーム対抗でディベート。
- Scholar's Challenge  
大会唯一の個人戦。マークシート式のペーパーテスト。
- Collaborative Writing  
6つのトピックの中から一人一つ選択し、エッセイを書く。チーム内でお互いのエッセイを添削しあうことができる。

## 速報

2017年11月9日～13日にイェール大学で開催された決勝大会で、李さんは800名中11位に入賞しました。発行日の都合で詳細は後日に譲るとして、結果だけをお知らせします。李さんの健闘を称えます。



# 進学羅針盤

## 先生文庫

「先生文庫」文字通り、ここには慶進の先生たちオススメの本がたくさんあります。先生一人ひとりの趣味嗜好がまさに表れるその本棚には、小説に新書、漫画に絵画集。中には『数学公式辞典』というマニアックなものまで、ジャンルを問わずたくさん本があります。純粋に読書を楽しみたい人はもちろん、小論文や志望理由書の参考にしたい人、先生の好みを覗いてみたい人、とにかく一度訪れてみてはいかがですか。きっと皆さんの興味を惹く一冊に出会えるはず。読み終わった後にはぜひ、その先生と語り合ってください！



秋穂先生  
オススメ

みぞろぎ梨穂

『約束の大地 - 思いも言葉も持っている』青林堂 2017

生後すぐに脳に障害を抱え、言葉が話すことができず、手を動かして文字を書くこともできない女の子が、二十二歳にして初めてその想いを詩に紡ぐ。國學院大學教授の柴田保之氏との出会いが、梨穂さんから言葉を引き出す。従来は「思いも言葉も」持たないとされてきた病院で寝たきりの生活を続ける「チャレンジド」の人々の詩。「生きる」という言葉の意味すら人それぞれであることを、私たちに思い出させてくれます。ぜひご一読ください。



古川先生  
オススメ

伊坂幸太郎

『魔王』講談社 2005 『モダンタイムス』講談社 2008

①読者にページを夢中でめくらせる力がある。  
②フィクションを通して読者にリアルな幸福感や恐怖を体験させることができる。  
私の考える良い小説の条件です。この二つを満たす（と思う）小説を今回はオススメしたいと思います。伊坂幸太郎「魔王」「モダンタイムス」（連作です。時間軸的には「魔王」→「モダンタイムス」の順番ですが、どちらから読んでも楽しめます。）

とにかくおもしろい。ページをめくらせる力は半端ではありません。それでいて国家・政治・デジタル社会といった結構お堅いテーマについてぐいぐい引っ張られ、考えさせられてしまう。現実世界を批評・分析した新書などで「理解する」のとは異なる、小説ならではの「体感する」リアリティ。ささやかながら、世界の見え方が変わるかもしれません。



今回のテーマは「本」。昔は本屋さんや図書館でしか出会うことがなかったのですが、最近ではインターネットなどで様々な本が簡単に手に入るようになり、より身近になったような気がします。そんな本との出会いですが、慶進にも皆さんが本と出会える場所があります。今回は進学指導部より、小論文に役立つ1冊：だけでなく、皆さんの人生を豊かにしてくれる、そんな本と出会える場所を紹介したいと思います。いつ、どこで運命の出会いがあるか分かりませんがぜひ訪れてみてください。

## コミュニケーションスペース

みなさんがいつも使っているコミュニケーションスペース、何があるか知っていますか？この場所は、学習の場であり、また大学受験のための情報収集の場です。そのいくつかある中の「医療系・医学部資料コーナー」を紹介したいと思います。



〔医学・医療概説／長野敬／河合塾〕…参考書

必携!

☆早い時期に必ず手にとっておきたい一冊  
例…脳死と臓器移植を巡る問題  
脳死とはどんな状態？脳死が注目を浴びたのはなぜ？脳死の判定における問題、脳死と臓器移植の関係性などなど。医療現場に立つ者として知っておきたい知識が盛りだくさんです。

〔医学部の小論文／広川徹他／河合塾〕…ワーク  
現在、高校三年次に医学部医学科小論文対策に使っている一冊です。先を見据え対策を計画的に進めるために、参考に見てみてください。

## 図書室

### もっと気楽に「新書」を読んでみよう

「新書」と聞くと、「何だか難しいことが書いてある本」「専門書みたいで面白くないさそう」といった感想がすぐに出てきそうですが、実はそんな本ばかりではないのです。最近の「新書」は読み易く、内容も一般向けのもが多くなっています。また、中学生・高校生向けの「ジュニア新書」なども出版され、皆さんの身近なものになってきているんですよ。では、図書室に並んでいる「新書」の中から面白そうなものを紹介してみましょう。

歴史に関心のある君には、『応仁の乱』呉座勇一著（中公新書）がお勧め。応仁の乱は歴史上かなり有名なわりには、今までこの時代について書かれた本が少ないということで、今歴史に興味のある人たち（歴男・歴女）の間ではベストセラーになっているそうです。

異文化交流に関心のある君には、『クール・ジャパン』鴻上尚史著（講談社新書）はどうか。これは、NHK・BSで放送されている「COOL Japan 発掘！ かつこいいニッポン」の内容をそのままにしたもの。最近、TVでも同種の番組が増えています。外国人から見たニッポンの姿をトーク形式で紹介したものです。意外と日本人自身が気付かない「日本の良さ」を面白おかしく教えてくれます。

芸能が好きな君には、『間抜けの構造』ビートたけし著（新潮社）漫才や落語といった話芸には必ず「間をとる」瞬間があります。また、普段人と話をしている時でも上手く「間」をとって話せば、相手も聞き取り易いし、リアクションもしやすくなり、会話もはずみます。この本では「間」の大切さや上手な「間」の取り方など、ビートたけしが独自の文体で教えてくれます。

まだまだ皆さんの興味を引きそうな「新書」はたくさんあります。ぜひ一度図書室に行つて気楽に「新書」を手にとってみてください。きっとあなたの視野が広がっていくことでしょう。



### 図書室には実は漫画もあるって知っていましたか？

漫画といってもそこは学校の図書館です。皆さんの学習に役立つ漫画作品なのです。たとえば歴史物なら『史記』『三国志』。教科書で読む「〇〇の乱」がよくわかる！漫画で読むことの良さは、ビジュアルで理解できること。とくにお薦めなのが…これです！『あさきゆめみし』

高校生の皆さんが、おそらく古文の時間に苦戦している『源氏物語』。我が国を代表する物語文学。五十四帖にも及ぶ長編で、登場人物は500人にも及ぶ壮大なストーリー。大学入試問題にもたびたび登場し…と聞くだけでめまいが…という人も多いのではないのでしょうか。「光源氏」という名のイケメンが主人公で数多くの女性と恋をして、というあらすじはだれでも知っていますが、とても複雑な物語です。心理描写も実に奥深い。それだけに、難解なのです。紫式部は天才ですが、コンピューターもない時代に、こんな長編ストーリーを手書きで書いたにもかかわらず、矛盾点が一つもないのだそうです。あらゆる場面を教科書や模試、入試問題など



で読みますが、「誰が誰に恋してるの！？全然わからない！」という人も多いことでしょう。一度漫画で読んでストーリーを理解しておくくと、古文で読んだときに格段に理解しやすいのです。ビジュアルが頭に入っていると、本当にわかりやすい！古文はキラリ、という人にこそ読んでほしい。源氏物語は高校二年生で習いますから、ぜひ高校一年生のうちに手にとってみてください。メロドラマの好きな人はきっとハマると思います。

図書室には古典作品だけでなく、名作の漫画シリーズがあります。漫画で読んでストーリーを知ると、「意外と身近な話なんだな」という発見がきっとあります。

〔医学部受験の総合的研究／清水直史／旺文社〕

…受験ハンドブック

大学受験は情報戦でもあります。知らないことは間違いなく不利です。そうならないためにも医学部受験に関する情報がたくさん載っている一冊を味方にしてください。

〔新書・文庫本など〕…人の考え、思いに触れる

医学・医療に関する具体的な学習に入る前に新書などを読み、人間の「生」と「死」について一度考えてみることは大切です。医療に携わるものとして考えるべきこと、その責任や覚悟については是非自分自身と向かい合ってみてください。また、知識だけ詰め込み、頭でっかちになってしまうものも考えものです。事件は会議室で起きてるんじゃない！現場で起きてるんだ！現場では患者さんがいて、患者さんの家族がいて、一緒に働く仲間がいます。小説を読むことで現場のリアルな考え方や感情に触れ、座学だけでは補えない心の感覚についても学び取ることができます。かもしれません。

〔神様のカルテ〕

…こんなお医者さんに診てほしい！

二〇一一年に映画化され、話題になった一冊です。地方病院に勤務しているちよつと変わったお医者さんの心温まるハートフルストーリーです。ぜひ一読あれ！続編も発売されています。

新聞記事  
切り抜きコーナー

Coming Soon!



野島 大輔 加藤 建 横浜 智基 加藤 陽葉  
 末富 洋一 山之内 晃 倉重 貴規 渡辺 愛梨



平成21年度卒業

# 中高一貫コース1期生

仲間の結婚式に集まった一期生八名は、ばっちりときまつたフォーマルな装いで、大人の風格漂うたくましい青年たち  
 に成長していました。  
 卒業から八年、その時間の長さを皆でしみじみ感じただけ  
 ですが、彼らにとつての慶進での六年間は、顔を合わせればい  
 つても鮮明によみがえるノスタルジックな思い出のよう  
 です。

中高一貫コースは、「私たちの6年後は私たちがつくる」  
 のスロウガンのもと、一期生が期待と不安を胸に集まってく  
 れ十四年前にスタートしました。最初はたった一学年。一年  
 たつごとに二学年、三学年と後輩も増えていくなか、特に学  
 校行事は、生徒と教員が一緒になって考え作ってきた感があ  
 ります。今や皆さんに人気の慶進祭も最初は中学生だけの実  
 施で、こじんまりとしたものでしたが、一人一人が主役で、  
 その内容はなかなかの出来栄でした。スポーツフェスティ  
 バルも少人数ならではの工夫をこらしての開催で、全員一丸  
 となって頑張りました。何もかもが手探り、私たち教員とが  
 むしやらに、ひたむきに進み中高一貫コースの道を切り拓い  
 てきたのが一期生です。

現在、そんな先輩たちは、当時語っていた夢を実現し希望  
 の仕事に励んでいたり、まだまだ夢の途中で働きながら勉強  
 を続けていたり。それぞれが自分の道をしっかりと歩んでい  
 ます。生き生きと自分の近況を話してくれる彼らを見ると教  
 師冥利に尽きます。

さて、みなさんは、代々の先輩の思いを引き継ぎ、慶進を  
 どんどん進化させてきました。学習ばかりでなく学校行事、  
 キャリア教育と、試行錯誤を繰り返しながらより充実したプ  
 ログラムのもと、慶進は、みなさんの成長が期待できる学校  
 に進化しています。そして何より先を行くたのもしい先輩が  
 いる。彼らは慶進の財産です。心強い限り。卒業後も慶進生  
 がどんどんつながって、社会で活躍してくれる、立ち上げ当  
 時のそんな思いがだんだん現実味を帯びてきた！今後が楽し  
 みです。

担任 藤井 桜

## 同期の結婚式に 参列した感想は？

**横浜** すごくいい式でした。六年間一緒にすごした仲間の結婚する姿は、すごくうれしかったです。結婚した彼とは毎日一緒に登校し、いつも遅刻ぎりぎりに登校する仲だったのので(笑)感慨深かったです。それに結婚式でみんなと会えたのもうれしかったです。卒業以来の子もいましたが、みんな大人になっている反面、変わってないなとも思いました。再会して時が戻ったけど、みんなそれぞれ別の種類の仕事で働いている同級生をみて刺激をうけました。

学や職場の友達とは違って家族の結婚みたいな感じがしました。六年間を共に過ごし築いた何かがある気がします。

## 慶進六年間の 思い出は？

**横浜** 高校生の時に生徒会長としてがんばったことが大きな思い出です。生徒会長に就任した時に、先生から言われたことをする生徒会ではなく、自分たちで自分たちの学校をつくることを目標としました。だから生徒発案で多くの行事を企画し、実行しました。例えば、体育祭では全てを自分たちで創ろうと意識しました。青写真を描き、準備し、どのように成功させるかを考えました。僕は今、中学校の先生をしているのですが、その経験は授業づくりに役立っています。

高校の生徒会を除いて中高一貫六年間を通した思い出となると、勉強です。周囲が勉強する姿がよい刺激でした。人生一生勉強だという感覚を掴めた気がします。もちろん最初から勉強好きだったわけではありません。六年間かけて好きになりました。

**加藤** 六年間はすべていい思い出です。自分にとって今の基礎になっていると考えます。その中でも慶進祭でプラネタリウムをつくったことが真つ先に頭に浮かびます。苦労して苦労して一から本当にみんなで作りました。クラスの一人ひとりが適材適所で活躍でき、完成させたというのが思い出です。中三と高一で二度つくりましたが、中三の方が思い出深いです。試行錯誤して初めて作ったので感慨深いですね。高一の時はこなれた感じでした。

## 慶進での 学びとは？

**横浜** 生徒会以外では勉強合宿がすごくいい行事でした。中三と高二での合宿でしたが、毎学期に行ってもいいと思えるほどです。メディアなど外部の音をシャットダウンして、一つのこと集中する環境をつくるのがとてもよかったです。また、勉強だけでなく自分をみつめ直す場としてとてもよかったです。勉強合宿を機に変わっていく仲間がいました。

**加藤** やっぱりプラネタリウムです。その時にどのようにきれいな半球ができるかをみんなで考え試行錯誤し、きれいな半球ができました。プラネタリウムを移す面についても、どのようにすればきれいに光が移るか、何等星までうつるかなども結構考えました。一つ一つをみんなで考え、検討するので達成感が大きかったです。

## 後輩に読んで欲しい本は？

**横浜** 僕が本嫌いから変わった本である伊坂幸太郎の本がおすすすめです。伊坂氏の本を友達に教えてもらってから、本嫌いじゃなくなり、本を読むようになりました。最初に読んだのは『重力ピエロ』です。複数のストーリーが絡み合い、伏線となり、一度読み終えた後に読み返してしまったりツクのうまさに惹かれました。読んだら、慶進生はどっふりはまるはず。

**加藤** 私にそれをきいちゃダメですよ。今は仕事で忙しいので全然読む暇がないです。だからこそ、後輩には今のうちにいっぱい本を読んで欲しいです。

## | お | 知 | ら | せ |

La photo de Keishin 慶進の知識の泉



## ■平成30年度 入試日程

## A日程入学試験願書受付

12月14日(木)～16日(土) 正午まで

## A日程入学試験

1月7日(日)

## B日程入学試験願書受付

1月30日(火)～1月31日(水) 17時まで

## B日程入学試験

2月3日(土)

ご不明な点については、慶進中学校・高等学校  
にご連絡ください。

TEL 0836-34-1111

夏休みを前に今年もたくさんの力作POP が出揃いました。  
本を通じて広がる世界は無敵大。

その扉を開くきっかけはやはり楽しいほうがいい!!というの  
が慶進スタイル。自分の感じた楽しさや感動を形にして人に届  
けるPOPは、自分自身の世界だけでなく、周りの仲間の世界を  
広げる素敵なツールになっていきます。



## 第10回 小さな本箱

社会科学 森 拓馬先生のおすすめ

## 下町ロケット

池井戸 潤

この作品は二〇一五年にドラマ化されたこともあり、タイトルを聞いたことや、実際に読んだことがある人も多いいのではないかと思います。半沢直樹シリーズなどで知られる、池井戸潤の作品である。

大学でロケットの研究をしていた佃航平は、自身が手掛けたロケットの打ち上げ失敗により、研究者の道を退き、家業の町工場を継ぐこととなる。製品開発で順調に業績を伸ばしていた佃だったが、突然大手メーカーからの取引を打ち切られたことで赤字の危機に陥り、さらに理不尽な特許侵害を訴えるライバル企業や、傲慢な論理を振りかざす巨大企業との戦いに巻き込まれていく。こうした困難な状況の中で、周囲の助けを得ながら危機を乗り切っていく場面は胸を熱くさせる。

この作品では「夢」と「現実」が大きなテーマとなっている。自社製のエンジンを積んだロケットを飛ばしたいという夢を持つ佃に対し、現実的な考えを持ち、確実な利益を求めてロケットエンジンの開発に反対する社員たち。「カネの

問題じゃない。これはエンジン・メーカーとしての、夢とプライドの問題だ」「私たちがたつて家族があるんですよ。いつ路頭に迷うかわからない状況で、落ち着いて仕事なんかできません」……。

夢か現実か。進学や就職など、様々な場面で多くの人がぶつかり、悩む問題ではないだろうか。振り返ってみると、私はそもそも大きな夢を抱いたことがほとんどない気がする。目標を立てることはあっても、それは頑張れば達成できる程度のものであり、突拍子もないような大きな目標を掲げることはなかった。生徒の皆さんの中にも、私と同じような人はいるのではないだろうか。

今でも現実をしつかりと見つめることは大きなことであり、そうしなければならぬという考えは変わらなない。しかし、そればかりでは面白くない。「教師になりたい」という、私の唯一の夢を叶えることができた今、何か新たな夢を持つことがこれから生きていく中で大きな糧となるのではないかと、そう思える一冊であった。